




戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書

団体名称	公益財団法人日本舞台芸術振興会
担当者連絡先	(担当部署) 制作部 (氏名) 米津崇之 (電話) 03-5721-8081 (アドレス) yonezu@nbs.or.jp

1. 事業内容

課題	課題 i : 我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組	
事業名	《契約件名》	ゴールド・メダル・プロジェクト
事業期間	平成30年4月1日 ~ 令和5年3月31日 ※契約期間を記載	
	<p>【2018年度】 「白鳥の湖」公演全国ツアー 台本：ウラジーミル・ペギチェフ、ワシーリー・ゲルツァー、改訂振付：ウラジーミル・ブルメイステル、第2幕振付：レフ・イワノフ、アレクサンドル・ゴールスキー（三羽の白鳥） 音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー （2018年7月4日（水）、6日（金）、8日（日）3回公演）会場：山口市民会館、島根県立芸術劇場「グラントワ」、倉吉未来中心 2018年度の第一のプロジェクトでは、東京一極集中型の公演では達成できない、普段実施できない地域でのバレエ公演の上演を実施し、東京バレエ団のブランドカアップと、将来の観客増加を図った。演目はポピュラーでバレエの代名詞ともいえる「白鳥の湖」を上演。山口市民会館、島根県立芸術劇場「グラントワ」、倉吉未来中心で公演を実施した。これらの公演実施が、2021年、2022年の東京バレエ団の大規模な全国ツアーの布石となった。</p>  <p>モーリス・ベジャール振付「ザ・カブキ」 演出・振付：モーリス・ベジャール 音楽：黛敏郎 （実施時期：2018年12月15日（土）～12月16日（日）2回公演）会場：東京文化会館 2018年度の第二のプロジェクトでは、日本を題材としたオリジナル作品の上演を実施した。20世紀最高の振付家の一人、モーリス・ベジャールが歌舞伎の仮名手本忠臣蔵を題材に、東京バレエ団のために振り付けたオリジナル作品は、日本のバレエ団が第一級のバレエ団として世界的な注目を浴びる財産であり、世界に打って出るレパートリーとして財産である。 こうした活動の結果、翌2019年度は、イタリアのミラノ・スカラ座、オーストリアのウィーン国立歌劇場、ポーランドのウッチ歌劇場で大規模な海外ツアーを実施、また2023年度は、コロナ禍発生後、初となる海外公演では、オーストラリア・バレエ団から招聘を受けて11公演を実施する。</p>  <p>「海賊」アンナ＝マリー＝ホームズ振付 団体初演 復元振付：アンナ＝マリー＝ホームズ（マリウス・プティパに基づく）、音楽：アドルフ・アダンほか（編曲：ラース・ペインほか）、台本：ジュール＝アンリ＝ヴェルノワ・ド・サン＝ジョルジュに基づくアンナ＝マリー＝ホームズ版 原作：バイロン「海賊」（1814） （実施時期：2019年3月15日（金）～3月17日（日）3回公演）会場：東京文化会館 東京バレエ団の創立55周年を記念し、バレエ団のブランドカアップと、レパートリー拡大の目的のために、プティパ最後の傑作の「海賊」の初演に取り組んだ。東京公演のあと、富山と西宮でも全国ツアーを引き続いて実施した。ミラノ・スカラ座の豪華な舞台美術、衣裳とともに、初演は大成功となり、2021年に再演しレパートリーの拡充につながった。なお、翌2019年は、ミラノ・スカラ座より招聘を受けて、東京バレエ団は海外公演をミラノで実施した。</p> 	

事業内容

【2019年度】

「くるみ割り人形」新制作

実施時期：2019年12月13日（金）～12月15日（日） 会場：東京文化会館 3回公演 振付：マリウス・プティパに基づく東京バレエ団版

音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

バレエ作品のなかでも、最もポピュラーであり、チャイコフスキーの同名の美しい音楽ともに親しまれている本作品を今後の協力的なコンテンツとして保有すべく、装置・衣裳を一新、新制作を実施した。初演は大きな成功をおさめ、以後、毎年クリスマスの恒例企画としてくり返し上演、全国でも数多くのツアーを毎年実施し、バレエ団の公演回数増加に大きく貢献している。



【2020年度】

「ジゼル」

公演期間（本番）：2021年2月26日（金）～2021年2月28日（日）

会場：東京文化会館 3回公演

振付：レオニード・ラヴロフスキー、音楽：アドルフ・アダン

コロナ禍の最中、東京バレエ団の伝統的なレパトリーである「ジゼル」を6年ぶりに復活させた。魅力的なレパトリーの拡充、ダンサーの育成と発掘をテーマに、現在将来に備える投資としての企画を実施。コロナ禍のなか成功をおさめた。本企画の結果は、2023年度の再演につながり、またオーストラリア・バレエ団より招聘を受けて、メルボルンで11公演を予定している。



【2021年度】

プロジェクト①【東京バレエ団 日本発・日本人による世界初演作品創造プロジェクト

「金森穂 世界初演×東京バレエ団」】

実施時期：2021年11月6日（土）11月7日（日） 2回公演

会場：東京文化会館（東京都台東区）2回公演 振付：「かぐや姫」第一幕：金森穂、「ドリーム・タイム」：イリ・キリアン、「中国の不思議な役人」モーリス・ベジャール振付

世界に通用する日本人振付家による作品を創造し、東京バレエ団の新たなレパトリーとする目標を達成した。新進気鋭の振付家・金森穂に作品を委嘱、新作バレエ「かぐや姫」が誕生。また国内で東京バレエ団のみが上演できる、モーリス・ベジャール振付「中国の不思議な役人」とイリ・キリアン振付の「ドリームタイム」を貴重なレパトリーの伝承として上演した。現在、将来の海外公演の演目候補として、「かぐや姫」もあがっている。

プロジェクト②【東京バレエ団 日本人新進振付家育成プロジェクト 「コレオグラフィック・プロジェクト」】

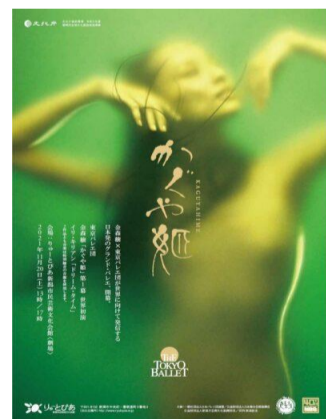
実施時期：2022年3月13日（日）14：00 会場：東京文化会館 1回公演

東京バレエ団の芸術監督が、ダンサーに振付機会の創設を強く願い始めた「コレオグラフィック・プロジェクト」。ダンサーが多角的に才能を発揮できる「創造の場」を提供。欧米の一流バレエ団が実施し、バレエ団内から新しい振付家が誕生し、作品を創造。その作品がバレエ団のレパトリーと加えられていく。そのプロセスを他に先駆けて国内で誕生させ、すでに6年前に開始した企画を多角的に発展させた。

プロジェクト③【映像配信活用プロジェクト】

芸術団体の新たな事業として、ライブ公演実施を活用した新規ビジネスの創造、来場者やスポンサー獲得の新しい広報宣伝活動、広く社会に開かれた芸術の啓蒙活動を、当該事業を活用した映像配信で立ち上げた。将来、バレエ団発の振付家とオリジナル作品が生まれる土壌を目的とする。翌2022年度も継続して企画を継続した。

実施時期：2022年4月1日～3月10日



【2022年度】

プロジェクト①【世界トップレベルのゴールドメダルプロジェクト 「ラ・バヤデール」】

<プロジェクト概要>

優れたコンテンツ、魅力的なレパートリーの構築、質量とともにトップレベルの公演回数を稼げるプロジェクトとして、東京バレエ団が取り組んできた最終目標が、古典バレエの大作「ラ・バヤデール」となった。バレエ団や舞台スタッフなど、舞台芸術の世界の総力が求められる本作品を、これまで世界の一流バレエ団より引き継いだノウハウを活かし、日本の舞台芸術チームの総力をあげて、海外の一流バレエ団による公演と同等以上の成果を出すことによって、将来に向けての世界への展望、および日本のバレエ界の真に財産となる結果を出すことを目標とした。本作品は、令和4年度（第77回）文化庁芸術祭賞大賞を受賞した。

実施時期：2022年10月13日（木）14日（金）15日（土）16日（日） 会場：東京文化会館 4回公演

振付：マリウス・プティパに基づくナタリア・マカロワ版 音楽：レオン・ミンクス 編曲：ジョン・ランチベリー（マリオ・ボワ出版）

舞台美術：ピエール・ルイジ・サマリターニ

衣裳：ヨランダ・ソナベンド

プロジェクト②【日本人新進振付家育成プロジェクト 「コレオグラフィック・プロジェクト」】

<プロジェクト概要>

東京バレエ団の芸術監督が、ダンサーが作品創造する機会をつくることを願い始めた「コレオグラフィック・プロジェクト」。ダンサーが多角的に才能を発揮できる「創造の場」を提供する。欧米の一流バレエ団が実施しているように、バレエ団内から新しい振付家が誕生し、作品を創造。その作品がバレエ団のレパートリーと加えられていくプロセスを構築する。優れたメンターを招聘し、その指導を得ることで振付家の成長を後押しした。

実施時期：2023年3月4日（土）会場：東京バレエ団本拠地スタジオ 2回公演

プロジェクト③【映像配信活用プロジェクト】

<プロジェクト概要>

芸術団体の新たな事業として、ライブ公演実施を活用した新規ビジネスの創造、来場者やスポンサー獲得の新しい広報宣伝活動、広く社会に開かれた芸術の啓蒙活動を、当該事業を活用した映像配信により立ち上げる。

実施時期：2022年4月1日～3月10日



※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。

URL

※成果報告の内容が分かるページを記載

2. 事業の目標・成果

1 公演数・観客数等定量的な成果について 各年度の実績及び次年度に向けての取組みについて記載。				
初年度における 5年後目標	(単位：)	H30	H31 (R1)	R2
<p>公演数を増やすこと。新しいレパートリーに取り組むこと。ダンサーたちの報酬を上げること。この3つの課題を克服することによって、世界のトップクラスに比肩するわが国を代表するバレエ団がつかれると信じている。東京において観客を増やすことや地方公演を増やすことによって、年間の公演回数が増やすことができる。新しい作品に関しては、東京バレエ団はすでに世界の他の主要バレエ団に比べても多彩なレパートリーをもっているが、日本人の振付家の作品や日本独自のテーマによるバレエを創作し、それらを海外でも上演することにより、日本のバレエ団の評価を一層高めることにつながると思う。ダンサーたちへの報酬に関しては、この「戦略的芸術文化創造推進事業」における助成金はもとより、公演回数が増やすことによってダンサーへの生活環境を改善させたい。そして、今後の発展の可能性が高い若い才能の育成や我が国における文化に触れる環境醸成に資することを目的に活動したい。さらに質の高い舞台を披露することや海外でも活躍することによって、企業スポンサーや支援者の理解を得られる。さらにファンドレイジング事業の強化によって、欧米の主要バレエ団と同等の報酬や社会的地位の向上につなげたいと思っている。</p>	<p>単年度目標</p>	<p>① 普段公演のできない地域で本格的なバレエ公演を実施する。 ② 日本を題材としたオリジナル作品を上演し、海外に向けたコンテンツとして育成する。 ③ 東京バレエ団の新コンテンツとして新作を上演する。</p>	<p>レパートリーの拡充と公演回数の増加、コンテンツの獲得として、ポピュラーな「くるみ割り人形」の新制作を実施し、将来につなげていく。</p>	<p>レパートリーの拡充と公演回数の増加、コンテンツの獲得を継続して実施するため、6年ぶりにコンテンツを復活上演させる。</p>
	<p>実績</p>	<p>① 山口市市民会館、島根県立芸術劇場、倉吉未来中心で「白鳥の湖」を実施。その後の地方公演の足がかりとなった。 ② 日本を題材にした「ザ・カブキ」を上演。2019年度の海外公演で欧州各地で上演した。 ③ 古典全幕作品の「海賊」を上演。2021年度に再演。レパートリーの拡充と公演回数の増加を達成した。</p>	<p>新しいコンテンツを獲得し、翌年以後は毎年再演を実施、バレエ団のドル箱プロジェクトとなっている。全国ツアーも実施に、初演以後、数十公演を達成している。</p>	<p>東京バレエ団の伝統的なレパートリーである「ジゼル」を6年ぶりに復活上演させた。本コンテンツは令和5年度に東京で再演するほか、オーストラリア・バレエ団より正式に招聘を受けて、メルボルンで11公演を予定している。</p>
	<p>各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み</p>	<p>H31年度に向けて… レパートリーの拡充と公演回数の増加、コンテンツの獲得として、最も可能性のある新制作を実施し、将来につなげる。</p>	<p>R2年度に向けて… レパートリーの拡充と公演回数の増加を継続して強化していく。</p>	<p>R3年度以降に向けて… 海外公演を見据えて、世界に打って出る海外向けのコンテンツを開発する。</p>
	<p>(単位：)</p>	<p>R3</p>	<p>R4</p>	<p>達成率</p>
	<p>単年度目標</p>	<p>世界に通用する日本人振付家による日本発のオリジナル作品を新制作し、将来の海外公演につなげD8:E9ていく。 将来の日本人振付家育成として、日本人新進振付家育成プロジェクトを実施する。 また、映像配信事業の可能性を探る。</p>	<p>優れたコンテンツ、魅力的なレパートリーの構築、質量ともにトップレベルの公演回数を得られるコンテンツとして、古典バレエ全幕作品の「ラ・バヤデル」を上演する。 新進振付家育成プロジェクト、映像配信による広告宣伝を継続して実施する。</p>	<p>90%</p>
<p>実績</p>	<p>次世代の最も才能のある日本人振付家と評価の高い、金森穰による「かぐや姫」全幕の制作に取り掛り、令和2年度は3年計画の初年度として、第1幕を初演した。 全幕初演は令和5年を予定しているが、海外公演の候補作品となっている。 新進振付家育成として「コレオグラフィックプロジェクト」を実施、翌年以降も継続している。 コロナ禍において、映像配信事業にいち早く取り組み、新しい事業としての可能性を探れた。</p>	<p>「ラ・バヤデル」の公演は高い評価を広く一般に得て、高い入場率と令和4年度（第77回）文化庁芸術祭賞大賞を受賞した。 来年度以降、海外公演の演目候補としてあがっている。 また、新進育成プロジェクトは昨年より発展し、会場も完売となった。</p>		
<p>各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み</p>	<p>R4年度以降に向けて… コロナ禍以後を見据えて、新たなコンテンツ獲得を目指す。</p>	<p>R5年度以降に向けて… 5年間の実績をもとに、国内公演の増加、積極的なレパートリー拡大、海外公演での活躍を実施する。</p>		

<課題解決>における成果について 2 「我が国の文化芸術による国家ブランドの構築と経済的価値等の創出や国際発信力を高めるための新たな展開に関する取組」について、各年度において課題解決するための取組目標及び事業実施による成果・変化、次年度に向けての取組を記載。				
初年度における5年後目標と現状		H30	H31 (R1)	R2
公演数を増やすこと。新しいレパートリーに取り組むこと。ダンサーたちの報酬を上げること。この3つの課題を克服することによって、世界のトップクラスに比肩するわが国を代表するバレエ団がつかれると信じている。東京において観客を増やすことや地方公演を増やすことによって、年間の公演回数を増やすことができる。新しい作品に関しては、東京バレエ団はすでに世界の他の主要バレエ団に比べても多彩なレパートリーをもっているが、日本人の振付家の作品や日本独自のテーマによるバレエを創作し、それらを海外でも上演することにより、日本のバレエ団の評価を一層高めることにつながると思う。ダンサーたちへの報酬に関しては、この「戦略的芸術文化創造推進事業」における助成金はもとより、公演回数を増やすことによってダンサーへの生活環境を改善させたい。そして、今後の発展の可能性が高い若い才能の育成や我が国における文化に触れる環境醸成に資することを目的に活動したい。さらに質の高い舞台を披露することや海外でも活躍することによって、企業スポンサーや支援者の理解を得られる。さらにファンディング事業の強化によって、欧米の主要バレエ団と同等の報酬や社会的地位の向上につなげたいと思っている。	単年度目標	① 普段公演のできない地域で本格的なバレエ公演を実施する。 ② 日本を題材としたオリジナル作品を上演し、海外に向けたコンテンツとして育成する。 ③ 東京バレエ団の新コンテンツとして新作を上演する。	チャイコフスキー三大バレエの一つ、最も重要な古典バレエ作品であり、最も一般的にポピュラーな「くるみ割り人形」を装置・衣裳を一新し、新制作する。	東京バレエ団の伝統的なレパートリーである「ジゼル」を6年ぶりに復活上演させる。ロマティック・バレエの傑作であり、東京バレエ団の十八番として重要なレパートリーである。
	実績	① 通常、大規模な本格的な古典バレエ全幕公演ができない地域において、バレエ公演を実施、バレエ芸術の普及を達成した。 ② 日本を題材としたオリジナル作品を上演し、翌年イタリア、フランス、ポーランドの世界で最も重要な劇場で海外ツアーを実現させた。 ③ バレエ団の新コンテンツとして振付家自身を招聘し、古典全幕作品「海賊」を上演。2021年の再演へとつなげた。	本作品の大規模な新制作を達成し、東京公演あと、全国ツアーも実施した。本企画をその後、毎年再演を重ね、国内でクリスマス時期の風物詩として定着させている。令和5年も前年度までと同様、東京公演と全国ツアーを実施する。	東京バレエ団の伝統的なレパートリーである「ジゼル」を6年ぶりに復活上演させた。本コンテンツは令和5年度に東京で再演するほか、オーストラリア・バレエ団より正式に招聘を受けて、メルボルンで11公演を予定しており、わが国の価値あるコンテンツとなっている。
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み		H31年度に向けて… レパートリーの拡充と公演回数の増加、コンテンツの獲得として、最も可能性のある新制作を実施し、将来につなげる。	R4年度に向けて… 海外公演を見据えて、世界に打って出る海外向けのコンテンツを開発する。D8・E9	R4年度に向けて… 海外公演を見据えて、世界に打って出る海外向けのコンテンツを開発する。
		R3	R4	達成率
	単年度目標	海外よりかねてから要望のあった、日本人振付家による日本発のオリジナル作品を新制する。 将来の日本人振付家育成として、日本人新進振付家育成プロジェクトを実施する。 また、映像配信事業の可能性を探る。	当該事業の最終年度として、優れたコンテンツ、魅力的なレパートリーの構築、質量ともにトップレベルの公演回数を得られるコンテンツとして、古典バレエ全幕作品の「ラ・バヤデール」を上演する。 新進振付家育成プロジェクト、映像配信による広告宣伝を継続して実施する。	90%
	実績	次世代の最も才能のある日本人振付家と評価の高い、金森穰による「かぐや姫」全幕の制作に取り掛り、令和2年度は3年計画の初年度として、第1幕を初演した。 全幕初演は令和5年を予定しているが、海外公演の候補作品となっている。 コロナ禍において、映像配信事業にいち早く取り組み、新しい事業としての可能性を探れた。	「ラ・バヤデール」の公演は高い評価を広く一般に得て、高い入場率と令和4年度（第77回）文化庁芸術祭賞大賞を受賞した。来年度以降、海外公演の演目候補としてあがっている。 また、新進育成プロジェクトは昨年より発展し、会場も完売となった。	
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み		R4年度に向けて… 優れたコンテンツの育成、その活用による積極的な芸術的活動を進めていく。	R5年度以降に向けて… 5年間の実績をもとに、国内公演の増加、積極的なレパートリー拡大、海外公演での活躍を実施する。	(達成率の根拠) 東京バレエ団は2019年度以降、文化庁の芸術祭において大賞を2回、優秀賞を1回、新人賞を1回継続して受賞しており、また、令和5年度以降の海外からの招聘、国内における大幅な公演の増加、アーティストの待遇改善など、当初、ゴールド・メダル・プロジェクトに掲げた目標を着実に達成しているため。

3 戦略的芸術文化創造推進事業における課題解決への成果の他に、得られた成果や波及効果について			
(1) 成果内容 ・本事業で取り組んだ活動で、新しい宣伝方法として映像配信による宣伝を実施するようになった。		(2) 今後、成果を生かせる事業や取組 ・本拠地の東京での公演回数の増加、全国ツアーの実施、特に地方で文化の拠点となる拠点形成事業への取り組みへの発展（東京で初演し、地方に持っていく）、海外公演への発展、アーティストの待遇改善による、優秀な人材が国内で活動できる基盤形成を進められる。	
4 新型コロナウイルス感染症による影響と取組について			
(1) 影響 ・当初、海外とのコラボレーションや招聘を予定していたが、渡航禁止によって実現できなかった。 ・感染症に関連した規制が劇場活動を大きく制限した。	(2) 中止・延期をせず、事業実施するための努力 ・本事業で中止は一件も発生しなかったが、理由としてオンライン指導など、コロナ禍でも実施できるテクニカル面を模索するなどの努力が大きかった。	(3) コロナ拡大の影響を通して得たもの、知見 ・オンラインの可能性について、指導や宣伝において大きなノウハウを得た。	(4) 今後、同様の感染症拡大が起こったことを見据えた取組
5 1～4 以外に、貴団体において周知したいこと			
日本のバレエ団は年々レベルを上げているが、優れた才能がプロとして国内の芸術団体に活躍するためには、受け皿となる土壌が必要であり、本事業において、①魅力的なレパートリーの確保、②公演回数の増加、③アーティストの待遇改善、結果として国内芸術団体のブランドカアップへとつながった。			
東京バレエ団は本事業の期間中、文化庁の芸術祭において大賞を2回、優秀賞を1回、新人賞を1回継続して受賞した。			
感想・評判			